

## 「2014 年の天然ガス情勢の展望」

### < 報告要旨 >

一般財団法人日本エネルギー経済研究所  
化石エネルギー・電力ユニット ガスグループマネージャー 森川 哲男

#### 2014 年の LNG 市場見通し

1. 2013 年の世界の LNG 需要は、欧州の輸入量減少が響き、2.30 億トンと 2012 年に引き続き前年割れすることが見込まれる。2014 年は、アジアを中心とした輸入量増加に牽引され世界の LNG 需要は 2011 年並みの 2.41 億トンにまで回復すると予測する。一方、世界の LNG 供給力は 2013 年に 2.47 億トン、2014 年に 2.55 億トンと、需要を満たすに充分存在する。
2. 日本の LNG 輸入量の 8 割を占める長期契約の LNG 価格は基本的に日本の原油輸入価格に連動して決定されている。スポットや短期契約による価格も長期契約価格との相関性が高い。2014 年度の原油輸入価格が \$105/bbl となる（報告 4 「2014 年度のわが国の経済・エネルギー需給見通し」参照）との前提の下、同年度の LNG 輸入価格は \$15/MMBtu になる。

#### 天然ガス/LNG 需要

3. 2013 年 1-8 月の天然ガス需要は、北米が 597Bcm（前年同期比 3Bcm 減）、欧州が 339Bcm（同 6Bcm 増）、北東アジア（日中韓台）が 244Bcm（同 9Bcm 増）であった。統計上はメキシコの需要減少が響いて、北米の需要が微減しているが、米国の需要は高いレベルで維持している。欧州全体の需要は、ドイツの需要回復が影響して増加したが、LNG 依存度の高い南欧の需要減少は継続している。北東アジアでは、日本の需要が減少しているものの、他国の需要増により欧米より高い伸び率となっている。
4. 2013 年 1-9 月の LNG 輸入量は、北東アジアが 1 億 1,620 万トン（前年同期比 430 万トン増）、欧州が 2,580 万トン（同 1,010 万トン減）、2013 年 1-8 月の米国の輸入量は 145 万トン（同 110 万トン減）であった。北東アジアでは、日本の輸入量は 40 万トン減少しているが、中韓の輸入量増加分が 470 万トンにも達している。欧州では、スペインやイギリスを中心に、ほとんどの国で輸入量が減少している。

#### 北米と中国の状況

5. 北米では新規 LNG プロジェクトが進捗している。米国の非 FTA 諸国向け輸出許可は、5 月に Freeport、9 月には Cove Point に下りた。2014 年初頭には Cameron へも非 FTA 諸国向け輸出許可が下りることが期待されている。日本企業は、Freeport、Cove Point、Cameron から 1,700 万トン/年の LNG 引き取りをコミットしている。また、カナダでも、多数の LNG プロジェクト計画が進められており、LNG Canada、Triton LNG、

Pacific Northwest LNG、Aurora LNG では日本企業も参画している。これら北米のプロジェクトは、供給源のみならず、価格決定方式多角化の観点から日本にとって極めて重要である。

6. 中国ではガスインフラ整備が引き続き急ピッチで進められている。2013年7月に、ミャンマーからの輸入パイプラインが稼働を開始した。9-12月にかけては、広東省・東莞、広東省・珠海、河北省・唐山、天津で LNG 受入基地が稼働を開始している。2013年1-9月の天然ガス需要は123Bcmで、前年同期比10Bcm増と堅調に推移している。輸入量も増加しているが、LNGよりもパイプラインガスの輸入量増加が著しい。この背景には、高コストのLNGが国内市場での価格競争力を失っていることがある。

### LNG 取引

7. LNGのスポットや短期契約取引量は引き続き拡大している。2013年1-11月の世界全体のスポットLNG取引量は341カーゴ（標準船換算約2,050万トン）と昨年全体の取引量を既に上回っていることが推測される。また、日本企業を中心として、短期契約の締結も進められている。このようなフレキシブルな供給が増加することにより、LNG市場の流動性向上が期待出来る。

### 天然ガス価格

1. 2013年8月の天然ガス輸入価格は、日本が\$16/MMBtuであったのに対し、イギリスは\$10/MMBtu、アメリカは\$3/MMBtuであった。2013年を通じて日本の輸入価格は\$15-16/MMBtu程度で推移しているが、円安により天然ガス（LNG）輸入額は前年比で1兆円程度増加することが見込まれる。これはマクロ経済や国富流出の観点から深刻な問題である。
2. LNG アジアプレミアムの要因の一つとして、原油価格が高止まりする中で石油価格連動によるLNG価格決定方式が採用されていることが挙げられる。より競争力のある価格でLNGを調達するための価格決定方式の追求が必要であるが、代替価格決定方式の一つとして、ハブや先物市場を通じたアジアでの指標価格を形成することは中長期的視点で重要である。米 Henry Hub や英 NBP のような国内現物卸売の価格形成には、国内ガス市場改革が必要であり、流動性確保には10年以上を要する。日本や中国におけるLNG先物契約の計画が成功するためには、仕向地条項や Take or Pay 程度の緩和を通じた現物LNG市場の流動性向上が必要であり、その実現には政府・民間の双方での取り組みが重要となる。

以上